

芦屋いもじ鑄物師 八木孝弘やつき たかひろ氏の 工房とギャラリーがオープン

芦屋釜の里で修業し、現代の芦屋釜を製作している八木孝弘ちゅうこうさん。令和4年3月26日、八木さんの鑄金工房とギャラリーがオープンしました。

八木さんは、平成9年に芦屋釜の里鑄物師養成員として職人の道に入りました。芦屋釜の里内の復興工房で16年間修業し、平成25年に独立。独立後は、復興工房を借りて活動していましたが、芦屋釜の里近隣に工房を新たに建設し、この春、オープンしたものです。



八木 孝弘さん

八木鑄金
〒807・0141
芦屋町大字山鹿1579・1
☎701・6170
※しばらくの間、ギャラリー見学は予約制となっています。

芦屋釜の里でオープン 記念展覧会を開催

芦屋釜の里では、八木さんの工房とギャラリーオープンを記念し、3月1日頃から5月29日にかけて、展覧会「八木孝弘茶の湯釜展」独立までの歩み」を開催しています。

八木さんが製作した重要文化財指定芦屋釜の復元作品、展覧会に出品したオリジナル作品などを展示しています。



芦屋釜の製作技術を 次世代へ

4月23日、芦屋町中央公民館講座が芦屋釜の里で開催され、「茶の湯釜鑑賞会」ものづくりの目」と題して、八木さんが職人の視点から自身の作品を語る講師を務めました。

八木さんは、職人の道に入っただきつかけ、古芦屋釜調査の際のエピソード、作品づくりの苦労などを交えながら、わかりやすく、自身の作品を解説しました。解説の最後には、芦屋釜の製作技術を次



ギャラリー



世代に継承することが自身の使命であると熱く語ってくれました。普段はなかなか聞くことができない製作者の話に、参加者も熱心に聞き入っていました。

八木さんからの メッセージ

偶然のきっかけからこの道に入りましたが、町民の皆様を支えていただき、はや四半世紀が過ぎようとしています。これから工房を本稼働し、現代の芦屋釜を全国の皆様に知ってもらおうべく、尽力する所存です。釜だけでなく、日常に使える鑄物製品も製作していく計画ですので、それら「芦屋鑄物」にも注目していただけると嬉しいです。

芦屋歴史紀行

その三百十三

その時、

芦屋で時代がつくられた

決戦 源平合戦⑤

西国侵攻 義経無双

寿永3(1184)年正月、源頼朝へ平氏を追討すべしとの宣旨が後白河法皇により出されます。兵権を与えられた頼朝がいよいよ西国の平氏追討に乗り出します。2月、平氏が陣取る旧都である福原(現・神戸市)を攻略します。一ノ谷での源義経の奇襲作戦(有名な鴨越の逆落と)の成功によるものでした。敗走する平氏は四国の屋島(現・高松市)に陣を移します。さらに翌元暦2/寿永4(1185)年2月、屋島の内裏も義経の背面からの急襲により落とされ、海上に逃れます。こうして平氏は最後の拠点彦島(現・下関市)を中核に関門地方に拠ることとなります。

西国侵攻 範頼苦勞

一ノ谷の合戦後、半年かけて追討の準備を行った源氏。総大将を源範頼とし、北条義時・和田義盛・比企

能員・三浦義澄・足利義兼・武田有義など有力御家人や、従軍僧の一品房昌寛が加わった軍勢でした。山陽道を進んだ範頼の軍勢は、安芸(現・広島県)から周防(現・山口県)に進んで九州に渡り、義経軍と共に平氏軍を挟み撃ちするため進軍します。ところが範頼軍は思うようには進めませんでした。当時の平氏軍の配置が屋島を本拠地とする平宗盛以下の本隊の他に、平知盛が強力な水軍を関門地方に展開していたからです。前後に敵を受け孤立した範頼軍は、兵糧・船舶の手配にも事欠き苦境に立たされます。しかも鎌倉の頼朝からは、在地住民と軋轢がないようにくれぐれも心掛けよと重ねて連絡が届きます。進退の途も閉ざされ、周防国で隠忍自重の状態を続ける範頼軍でしたが情勢が好転します。九州豊後(現・大分県)の豪族緒方惟栄などから兵・船・兵糧を提供されたのです。範頼軍は辛うじて九州豊後に渡りました。時は元暦2年2月、福原を墜とした一ノ谷の合戦から一年が経過していました

芦屋浦の戦い

範頼軍より北条義時、下河辺行平、渋谷重国らが先行して元暦2年1月25日に九州入りし豊後から北上。源平合戦九州唯一の陸戦、芦屋浦の戦いが始まります。2月1日、本来の主、山鹿秀遠不在のなか、原田種直・種益軍と遭遇し合戦となりました。『吾妻鏡』によると行平、重国らは奮戦し縦横に駆け巡り矢を放ち、美気敦種を行平が討ち取っています。この戦いの勝利によって、平氏の地盤である筑前・豊前(現・福岡県西部)・東部、大分県北部)を範頼軍が制圧。源氏軍を威圧していた彦島の平氏軍は孤立することとなります。

源氏の圧勝となったこの芦屋浦の戦いについては、芦屋浦とは豊後のどこかだ、その方が日程も無理がないという説があります。しかし芦屋では今の中央公園から芦屋中学校にかけて近年まであった砂丘地帯がその戦場跡であると伝えられています。さらに源平合戦の後、秀遠の所領は平家討伐に参加した京都六勝寺の1つ成勝寺の執行である一品房昌寛に与えられています。やはり芦屋浦の戦いはこの地であったことの証拠といえるでしょう。

(芦屋歴史の里)

編集後記

▼芦屋中学校吹奏楽部のレインボーコンサートや芦屋釜の里のさくらコンサートを撮影しました(まちのわだいに掲載)。どちらも良い音楽を聞きながらの楽しい取材なのですが、実は写真を撮るのが結構大変です。音楽イベントは音が命なので、演奏の邪魔をしたくないのですが、カメラのシャッター音って消すことができないのです。そのため、演奏中の真剣な表情やしぐさをなかなか撮れずもどかしい気持ちでした。(那木)

▼仕事をはじめてもう2カ月になるうとしています。毎日覚えることがたくさんあって、時間が経つのを忘れて、正午と夕方5時の放送が鳴ると、もうこんな時間になったのかと驚いています。取材や撮影は楽しく、子どもたちや町の人々の笑顔、きれいな風景に癒されています。技術はまだですがこれからも頑張っ勉強していきます。自分が撮影した小学校入学式の写真も載っているのでぜひ、まちのわだいでご覧ください。(手塚)

▼NHKの歴史探偵という番組で「源平合戦 壇の浦の戦い」が5月4日に放送されました。地元(の)の武将、山鹿秀遠の活躍が再現ドラマで表現され、芦屋歴史の里の学芸員が解説するなど、芦屋町が全国で紹介されました。この番組情報は、ホームページや芦屋町公式LINEで情報配信をします。今後のためにLINE登録をお願いします。

(欽守)

